

ひろしま型スマート農業推進事業の取組状況について

1 要旨・目的

ひろしま型スマート農業推進事業の令和4年度実証事業の公募を行い、審査の結果、最優秀提案者が決定したことを報告する。

併せて、令和3年度実証事業の取組状況を報告する。

2 現状・背景

- (1) スマート農業とは、「ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業」と定義される。
- (2) スマート農業技術は、大規模・平坦地等においては実用段階に入った技術も見られるが、中山間地域においては総じて開発途中である。
- (3) 令和3年度からひろしま型スマート農業推進事業を実施し、広島県の中山間地域に対応した、ひろしま型スマート農業技術を確立するとともに、これらを活用した経営モデルの構築を進めている。

3 概要

(1) 令和4年度実証事業（実証期間：R4～6）

ア 応募状況

延べ148社（県内企業・大学24社含む）から技術・アイデア等の登録があり、これら企業がグループを形成し、3つのテーマに対して13のグループから提案があった。

（テーマ1：3グループ、テーマ2：4グループ、テーマ3：6グループ）

イ 最優秀提案者及び提案概要（※は県内企業）

テーマ1 トマトの栽培から販売までの効率的な一貫体系の構築

最優秀提案者 三栄産業㈱※，外3社

実証地区 呉市倉橋町



テーマ2 レモン等の大規模経営の実現に向けた効率的な一貫体系の構築

最優秀提案者 株式会社エネルギー・コミュニケーションズ※, 外2大学

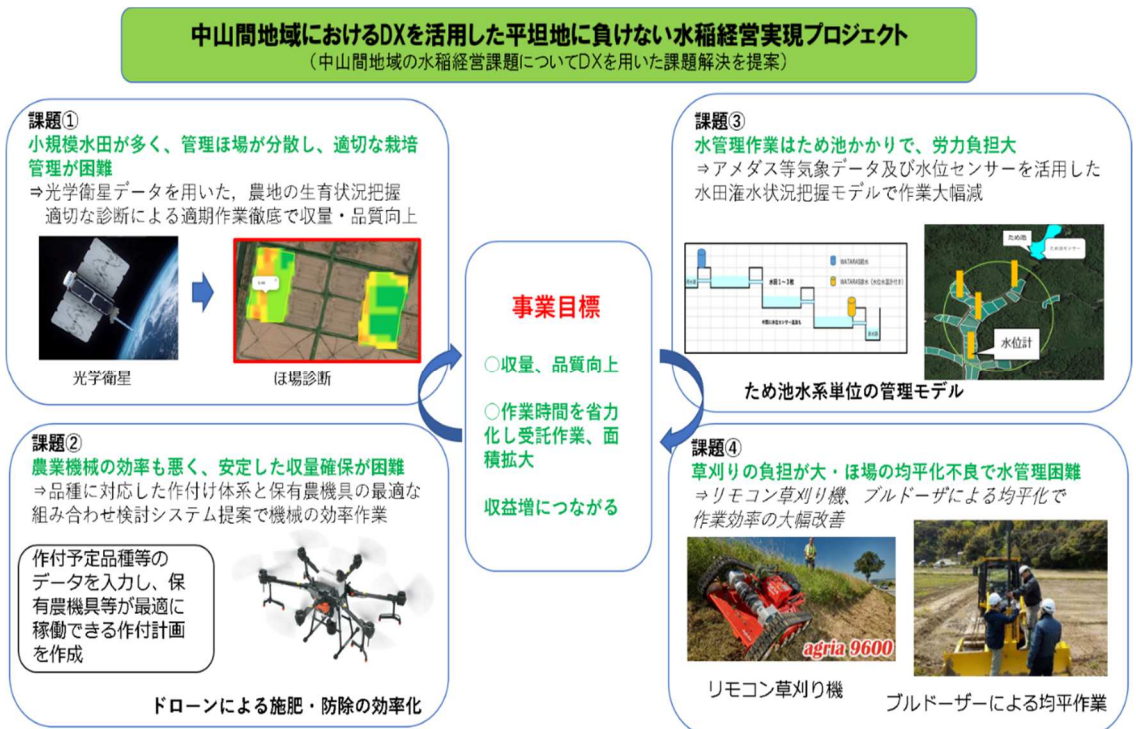
実証地区 尾道市瀬戸田町



テーマ3 中山間地域における100ha規模の水稲栽培の実現に向けた効率的な生産体系の構築

最優秀提案者 大信産業(株)※, 外2社, 1大学

実証地区 安芸高田市高宮町



ウ 今後の取組

各テーマについて、企業グループ、農業経営体、県、市町等の関係機関でコンソーシアムを組織するなど、3月からの実証開始に向けて準備を進める。

非選定となった企業等の技術・アイデアは公開するとともに、県内農業の課題解決に向け農業者とのマッチングを進め、優れた技術・アイデアの実証実現を働きかける。

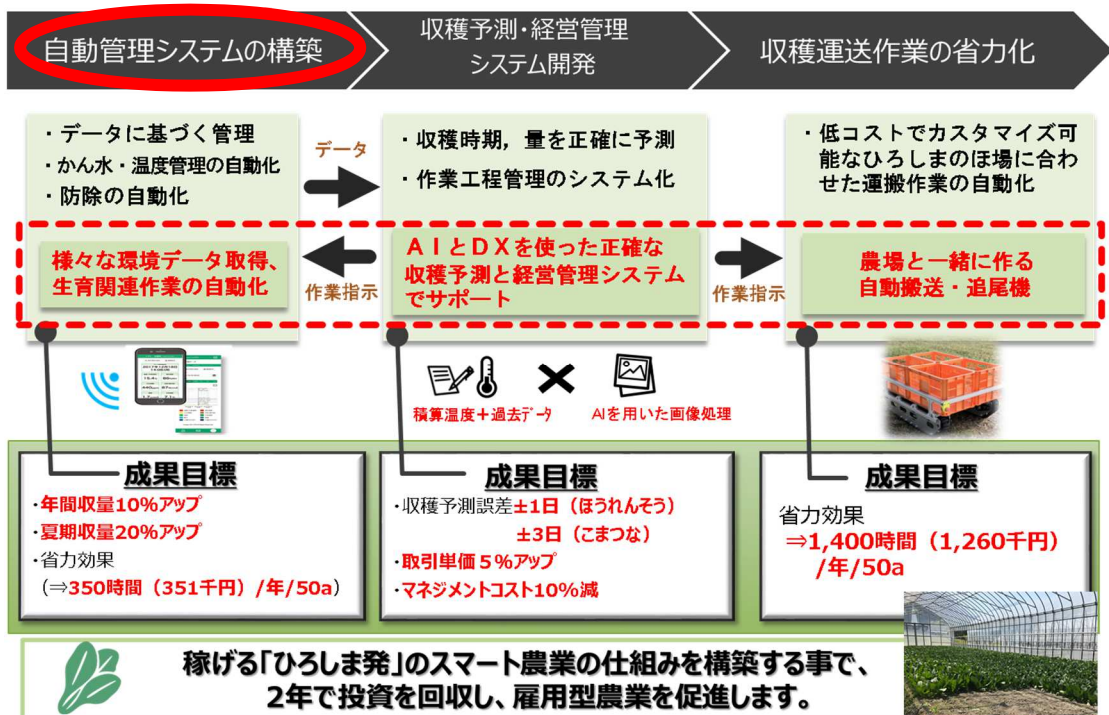
(2) 令和3年度実証事業（実証期間：R3～5）

ア 特徴的な成果

テーマ1 ほうれんそう及びこまつなの栽培から販売までの効率的な一貫体系の構築

実証技術：データ駆動型ハウス管理による収量向上

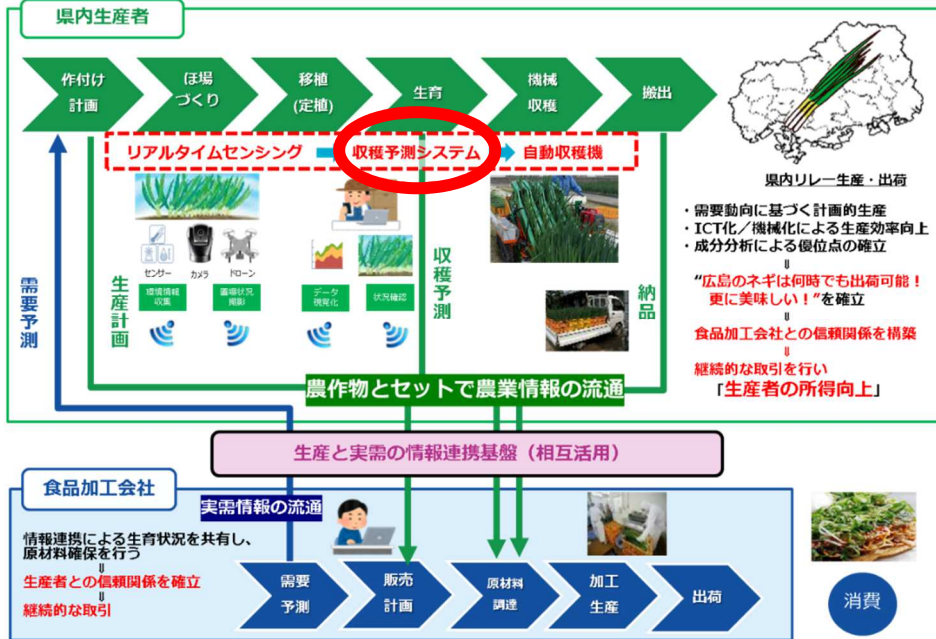
- ・自動灌水システム、自動換気・遮光システムが順調に稼働。稼働状況を、農業者がスマホで確認可能。
- ・今後、梅雨時期や高温時、強風時の動作確認や課題抽出を実施。



テーマ2 カット用青ねぎの露地栽培における効率的な一貫体系の構築

実証技術：収穫予測システムと連動した労働力の適正配分システム

- ・ 2週間前に収穫量が予測できるシステムを構築し、そのシステムと連動させ、自動的にほ場ごとの人員配置計画を作成することができるシステムが完成。
- ・ 今後、気象及び収穫データを収集し、収穫予測の精度向上に取り組む。



テーマ3 ぶどうの大規模栽培の実現に向けた効率的な作業体系の構築

実証技術：AI解析に基づく摘粒作業の効率化、出荷時の等級判定の標準化

- ・ スマートグラスを活用し、熟練者と同様の作業が可能となるシステムを構築。
- ・ 今後、実証フィールド以外のぶどう栽培者に協力を依頼し、データ収集を実施。



イ 今後の取組

テーマごとのコンソーシアム（企業グループ、農業経営体、県、市町等で組織）において、令和3年度実証事業の実績と課題を整理し、令和4年度の計画を作成している。作成した計画に基づき、アドバイザーの支援を受けながら、実証事業を行っていく。

(3) 予算 136,250千円（うち単県 121,250千円）